

令和3年度 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト 読書活動支援者育成事業南会津地区研修会

日時：令和3年8月5日（木）10:30～

会場：南会津町 御蔵入交流館 文化ホール・多目的ホール

◇研修会の内容◇

〈震災語り部講話〉

演題 『自分の命は自分で守る』

講師 震災語り部 五十嵐ひで子氏
相馬市観光協会事務局 井島 順子 氏

東日本大震災から10年が経過したことを踏まえ、実体験に基づくお話をいただきました。お話しの中に出てくる臨場感ある一つ一つの言葉は、その場に居たからこそ語れるものばかり。参加者の中には思わず涙する方も見られました。



〈講義・演習〉

演題 『伝わる話し方』

講師 福島テレビ報道部アナウンサー 菅家ひかる氏

読書ボランティアさんの読み聞かせのスキルアップを目的とした講義と演習を行いました。「言葉に対する責任」「言葉に思いをのせる」など、言葉のプロとしての講義はたいへん貴重で、後半は滑舌・発声の演習を交え、参加者が最後まで楽しく研修する姿が印象的でした。

〈情報交換〉

テーマ 『お気に入りの本を紹介しよう』

参加者が持ち寄ったお気に入りの本を、グループに分かれて紹介。これまで手にしたことがなかった本との出会いや、読み聞かせの現場での喜びや苦労等の情報交換はたいへん有意義でした。



【震災語り部 五十嵐ひで子さん】



【相馬市観光協会 井島順子さん】

～参加者の声 震災語り部講話～

- ◇ 空の色が鉛色、空気が重い…。震災の時の貴重な状況が聞くことができてよかったです。
- ◇ 前例があてはまらない事が起きている最近です。命を守る行動をあらためて考えたいと思いました。
- ◇ 語り部さんのお話を生で聞くのは初めてだったので、当時の情景が目浮かぶようで涙が出ました。
- ◇ 私も被災者。思い出して泣けてきました。昔の人の話を信じて安心していたことに驚きました。語り継がれてきたとも、現状に合わせて訂正しながら「命を守る」ことを教えていただいた気がします。
- ◇ 苦しい体験を話すまでの苦労をお察しします。話して下さりありがとうございました。私も多くの人に伝えていきたいです。
- ◇ 実際に体験された方の生の声は本当に力強く、たいへん感銘を受けました。前向きに力強く生きていらっしゃる五十嵐さんの姿、精力的な活動…。多くの方に聞いていただきたいです。
- ◇ 現在の中・高生に語り部を引き継いでほしいと思いました。

～参加者の声 講義・演習～

- ◇ 「言葉」に対するひかるさんの思いが強く伝わってくる講演でした。
- ◇ 教えていただいた滑舌練習や発声練習等をやってみたい!と思いました。
- ◇ 「伝える」ではなく「伝わる」話し方を考えなくてはいけないことがよくわかりました。
- ◇ 外郎売りの練習、自宅に帰って子どもと一緒にやってみようと思います。ひかるさんととても可愛かったです。
- ◇ 言葉に心を乗せて話すより相手に伝わること。内容もよかったですし、ひかるさんの人柄のおかげでとても楽しく気持ちよく参加させていただきました。
- ◇ 言葉の温度も大切だが、それを伝えるための技術も大切ですね。ひかるさんの読み聞かせを聞いて実感しました。
- ◇ プロの読み方が勉強になりました。毎日の努力、積み重ねの上にあるのだと実感しました。



【言葉の温度(心・情熱)+技術(緩急・高低・強弱・間・表情)=伝わる】



【みんなで滑舌や発声の演習】



【読み聞かせの実演】

～参加者の声 情報交換～

- ◇ いつもと違うメンバーとの選書や本に関する話しはとても参考になりました。次回もぜひ取り入れていただきたいです。1冊といわず何冊でも。
- ◇ 今まで知らずにいた本にも出会えました。選書の難しさについても意見交換できてよかった。
- ◇ ぜひ読みたい、読み聞かせをしてみたい本がたくさん見つかりました。その他にも様々な情報交換ができて、よい時間になりました。
- ◇ 一人一人お気に入りの本は違っていました。子供たちも違うと思うので、手当たり次第読んであげたいです。
- ◇ 本を選ぶ視点が広がりました。
- ◇ 今日のはじめて見る本に感動しました。参考にしたいです。
- ◇ コロナ禍で、読み聞かせボランティアの方々の活動はとてもたいへんなようです。
- ◇ 大人が好きな本と、子供受けする本の違いについて話し合いました。
- ◇ いろいろな本を知ることができました。みなさんの思いもあり、すごく楽しかったです。



【どのグループも楽しそうにお互いのお気に入りの本の紹介に聞き入っていました】